

第4回 説明文(4) 段落関係・要旨

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。①～⑪は、形式段落の番号を示します。

① アシカ、アザラシ、オットセイ、どれもズンドウで水から顔を出すと海坊主。よく似ていて区別が付きにくい動物たちだ。分類学的にも、鰭脚目というグループに全員が入っている。鰭脚とは、ヒレのような足という意味だ。

② これらの動物は魚のような形をしているが、哺乳類だということも知っているだろう。泳ぎながら、ときどき鼻を出して息をすることや、体にウロコではなく毛が生えていることが、その証拠だ。祖先は陸に住んでいた肉食動物なのである。なぜか陸の生活を捨てて水中の生活を選び、水中の肉である魚を食べているわけだ。口のまわりにヒゲがあり頭の形もイヌの仲間に似ているのは、遠い祖先が同じだからだ。

③ ただし、祖先が同じで、現在は鰭脚目としてひとつにまとめられているとはいえず、このズンドウ海坊主たちは、兄弟みたいに「同じ血が流れている者どうし」というわけではない。陸の肉食動物たちを、イヌの仲間、ネコの仲間、クマの仲間、イタチの仲間と分けるくら

いの違いが、この水中生活者たちの間にもある。遠い昔にたもとをわかち、別々の道を進んだはずが、結局、どちらも水中生活を選んでしまったというだけだ。そして水中生活に便利な体に進化した結果、結局、同じような体つきになってしまったということなのだ。つまり、どちらも水の抵抗を少なくして速く泳げるように、紡錘形の体になり、泳ぐのに邪魔にならないよう耳が小さくなって海坊主の頭になり、足は魚のひれのようにになり、要するに「見てくれ」が似てしまっただけである。

④ 鰭脚目を、さらに分類すると、アシカの仲間とアザラシの仲間の二つに大きく分けられる。オットセイはアシカの仲間だ。実際、よほどの専門家でないと、アシカとオットセイの区別は難しい。トドもでかいアシカのようなもの、セイウチもアシカの仲間と言っている。だから、アシカとアザラシという風に分けて構わない。そして、この二つが別々のルーツを持つのである。

⑤ まずアシカはイヌと共通の祖先から分かれたとされる。そしてアザラシの祖先はイタチと共通、その中でもラッコに似た動物が祖先だとされる。ちなみにラッコはカワウソに近いといわれるが両者ともイタチ科所属の動物である。

⑥ 両者の違いは、いろいろな点に現れている。まず泳ぎ

方だが、アシカは前足をボートのオールのように動かして泳ぐ。後ろ足は、ほとんど動かさず、方向を変えるときに「舵取り」の役目として使う。アザラシは反対で、。後ろ足は、魚のしっぽのように左右に振る。アシカは、体を上下に波打たせながら泳ぐが、アザラシは魚が泳ぐときのように、体を左右にくねらせながら泳ぐ。

⑦ ここで、ちよつと念のために言っておくと、アシカやアザラシの後ろ足とは、体の最後尾についている、二つに分かれた部分である。まるで魚のしっぽのようなつき方をしているせいで、^④あれをしっぽだと思ってい

る人がたくさんいるが、金魚じゃあるまいし、しっぽが二つに分かれています。しっぽは、その二つに分かれたものの間、つまりしっぽが通常あるべき位置にちゃんとある。ただ、あまりにも申し訳程度のものなので、見落とされているのである。

⑧ 次に陸上での歩き方の両者の違いだ。アシカは上半身を起こして前足で支え、短い後ろ足を両側に開いて、ヨチヨチながらもしつかり歩く。頭がかゆいとなったら、首を後ろにねじ曲げて、後ろ足を上げてかく。アザラシは体を起こすことが全然できない。陸に上がった後も、寝ころがったままである。足で体を支えることもできない。移動するときはシャクトリムシさながらに、背

中を丸めたり伸ばしたりして前進を重ねる。かゆい頭は、寝ころがったまま前足でかく。

⑨ 耳も違う。アシカもアザラシも耳は頭の上ではなく、我々と同じような位置にあるが、アシカの耳はとても小さくて、まるで酔物の物にするジュンサイがついているように見える。ところがアザラシには、そのジュンサイもなくツルツとした頭に突然、耳の穴だけが開いている。

⑩ ここで言う「耳」とは、正確には耳殻とか耳介と呼ばれる部分で、本来は集音装置である。でも、泳ぐときに「耳」が頭の上に張り出しては邪魔なので、頭の側面にずれていき、かつ小さくなっていったのだ。アザラシはそれでも邪魔だと言わんばかりに、張り出し部分を全部なくしてしまっただけである。

⑪ 要するに、アザラシの方が、より水中に適應しているのである。つまり、より魚に似ているのだ。魚の泳ぎの方とまったく同じ、陸上での姿勢も魚と同じ、耳殻がないツルツとした頭の形も同じだ。「魚のようになりた」と進んだ道は、イタチの祖先からの方がうまくいったということだ。

(加藤由子「ゾウの鼻はなぜ長い 動物の不思議31」より)
※ズンドウ：腹から腰にかけて同じように太くて、ぶかっこうなこと。

※海坊主：海上に現れるという妖怪。ここでは、耳が目立たずツルツとした頭をしていること。

※紡錘形：円柱形で両端がとがった形。

※ルーツ：祖先。

問一

——線① 「これらの動物は魚のような形をしているが、哺乳類だということは誰でも知っているだろう」とありますが、「これらの動物」が魚ではなく哺乳類だといえるのはなぜですか。文章中の言葉を使って、四十文字以内で答えなさい。

問二

——線② 「遠い昔にたもとをわかち、別々の道を進んだ」とありますが、別々の道を進んだはずのアシカやアザラシやオットセイが——線③のように「同じような体つきになってしまった」のはなぜですか。文章中の言葉を使って具体的に説明しなさい。

問三

——にあてはまる言葉を考えて、二十五字以上三十文字以内で答えなさい。

問四

——線④ 「あれをしっぽだと思っている人がたくさんいる」とありますが、「体の最後尾についている、二つに分かれた」「あれ」が、「しっぽ」ではなく「後

ろ足」だといえるのはどうしてですか。文章中に書かれていることから考えて、五十五字以内で答えなさい。

問五

この文章の要旨を、次の文のにあてはまるように、文章中の言葉を使って、五十文字以内で答えなさい。
・アシカとアザラシはどちらも鰭脚目で、体つきも似ているけれども、五十文字以内